



Strategic Capital
株式会社 ストラテジックキャピタル

日産車体株式会社に対する 株主提案に関する説明資料

2026年5月7日

株式会社ストラテジックキャピタル



ディスクレーマー

- 本資料は株式会社ストラテジックキャピタル（以下「弊社」といいます。）独自の分析、アクティビスト活動を通じて得た情報及び企業等によって公表された情報のみに基づき作成されています。本資料に掲載された情報及び資料は、弊社が信頼でき、最新であると判断した情報に基づき作成されておりますが、弊社は、明示又は黙示を問わず、その正確性、有効性又は完全性を保証するものではなく、この情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。弊社は、本資料において提供される情報及び見解を更新する義務を負わないものとします
- 本資料の内容に関する著作権その他一切の権利は、弊社に属しています。電子的方法又は機械的方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製、引用、転載又は転送等を行うことはできません

弊社からの提案内容

1

株主提案①：別途積立金の取り崩し

- **議案要旨**：日産車体株式会社（“日産車体”）の別途積立金（2025/3期末時点で228億48百万円）の全額を、繰越利益剰余金に振り替えること
- **目的**：別途積立金とするメリットは無い一方で、剰余金処分の柔軟性を損なうという明確なデメリットが存在している。実際に次号議案によって配当される金額は、別途積立金を取り崩されなければ1株当たりの配当金額が168円減少するため、速やかに別途積立金を取り崩すべき。

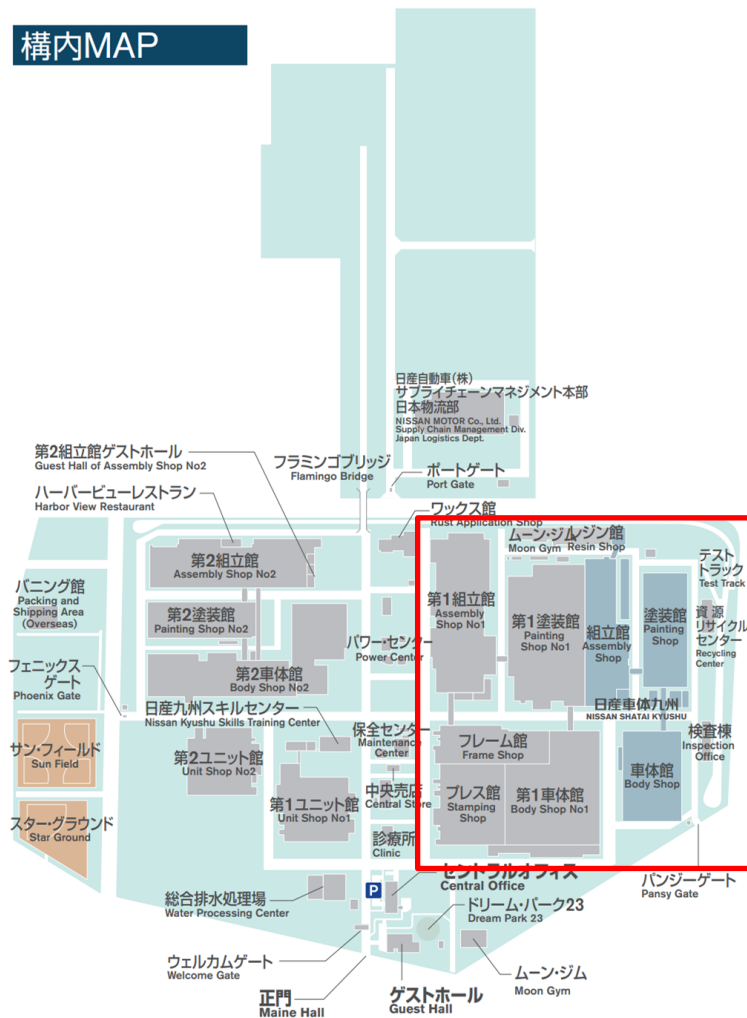
2

株主提案②：分配可能額全額の配当

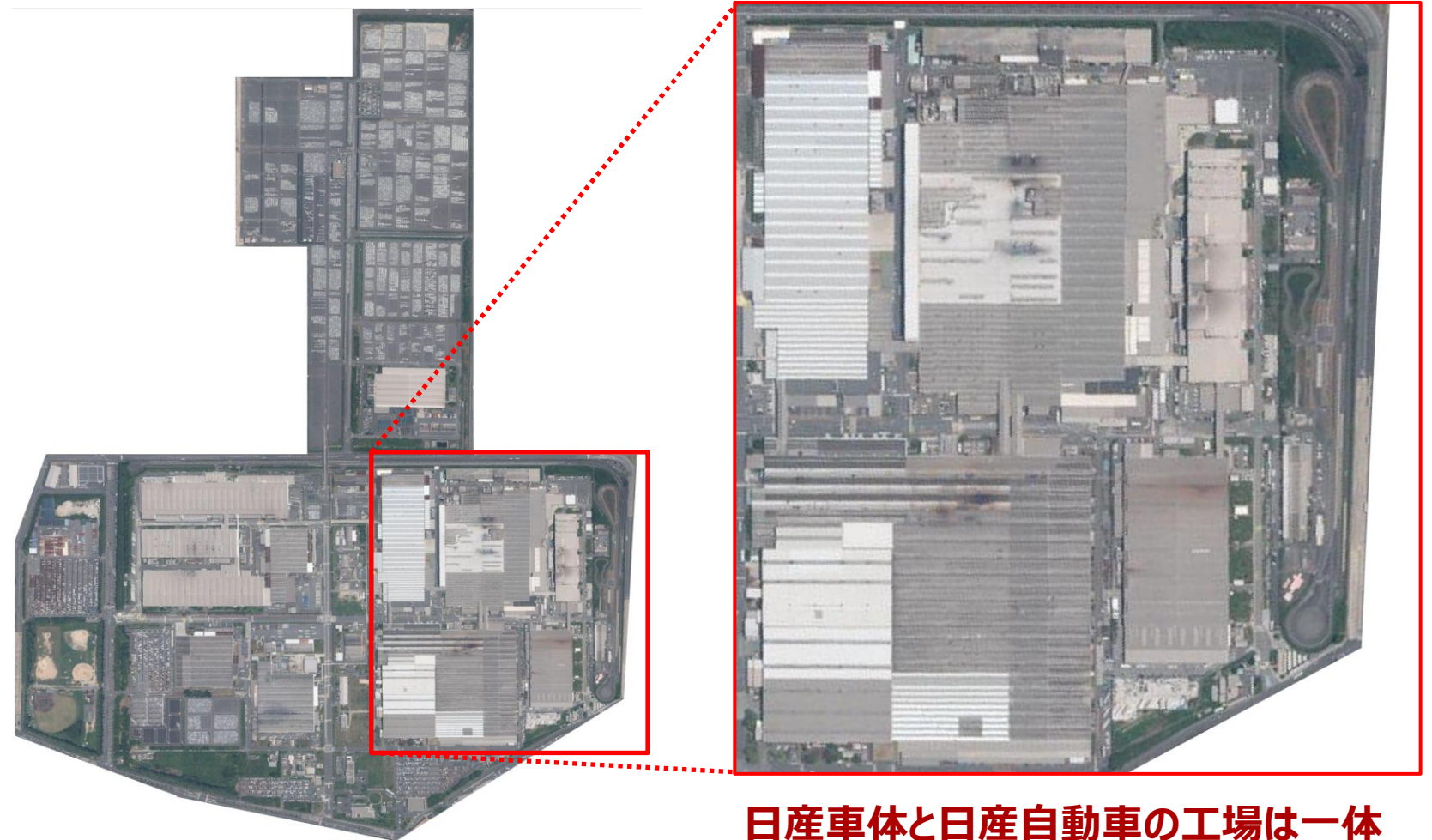
- **議案要旨**：日産車体の分配可能額の全額を特別配当に充当すること
- **目的**：そもそも日産車体は日産自動車株式会社（“日産自動車”）の工場に過ぎず、本来は非公開化されるべきであるにもかかわらず上場を維持し、さらには少数株主の利益と権利を毀損し続けている。仮に上場を維持するのであれば、日産自動車の信用補完とCMSを活用し、一切の内部留保を行わずに最大限の配当を行うべき。

日産自動車にとって日産車体は独立した取引先ではなく、工場の中のさらに一区画に過ぎない

日産自動車九州工場の構内MAP



日産自動車九州工場の衛星写真

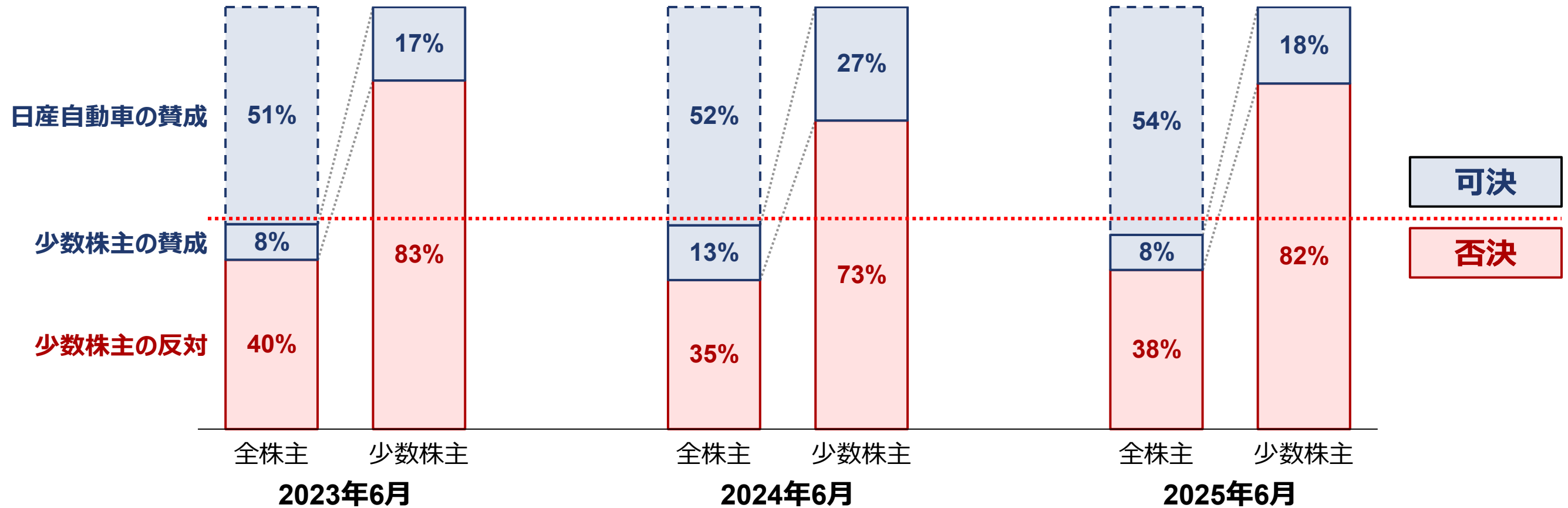


日産車体と日産自動車の工場は一体であり”独立した上場企業”たり得ない

出所：日産自動車九州の開示資料及び国土地理院地図より弊社作成

少数株主の大多数が日産自動車OBの富山社長に反対しているが日産車体は無視し続けている

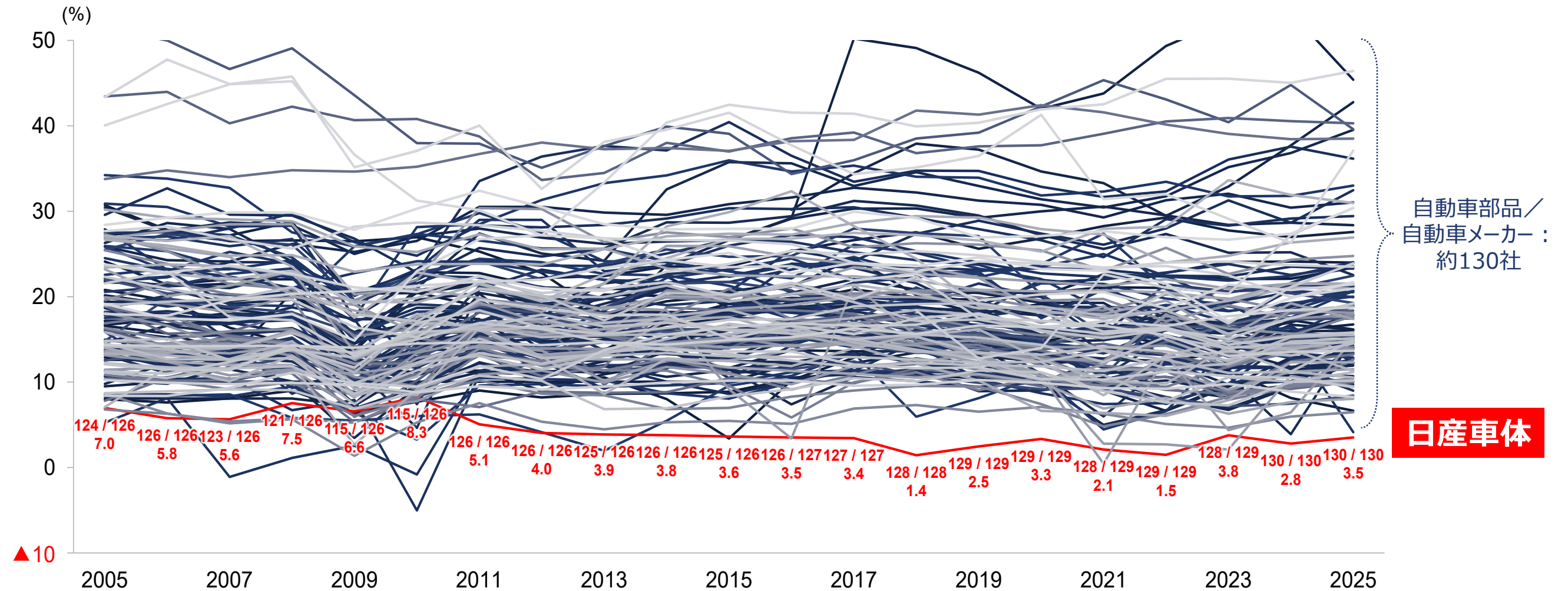
富山社長の取締役選任議案に対する議決権行使結果



出所：臨時報告書及び有価証券報告書より弊社作成

売上総利益率は「業界最低」が常態化

自動車部品／自動車メーカーの売上総利益率一覧（赤が日産車体、数値は日産車体の順位／集計対象社数と売上総利益率）

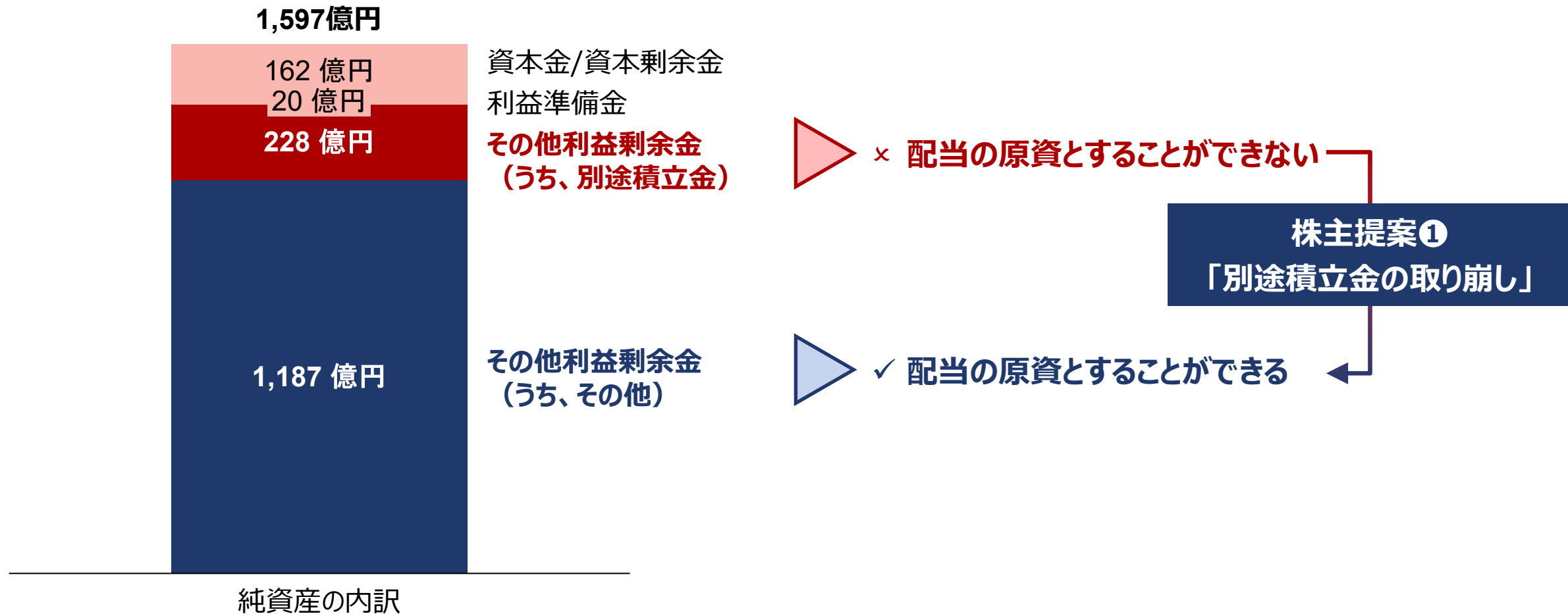


出所：QUICK Workstation (Astra Manager) より弊社作成

株主提案①

日産車体の純資産のうち、配当への充当に制限がある別途積立金を取り崩す

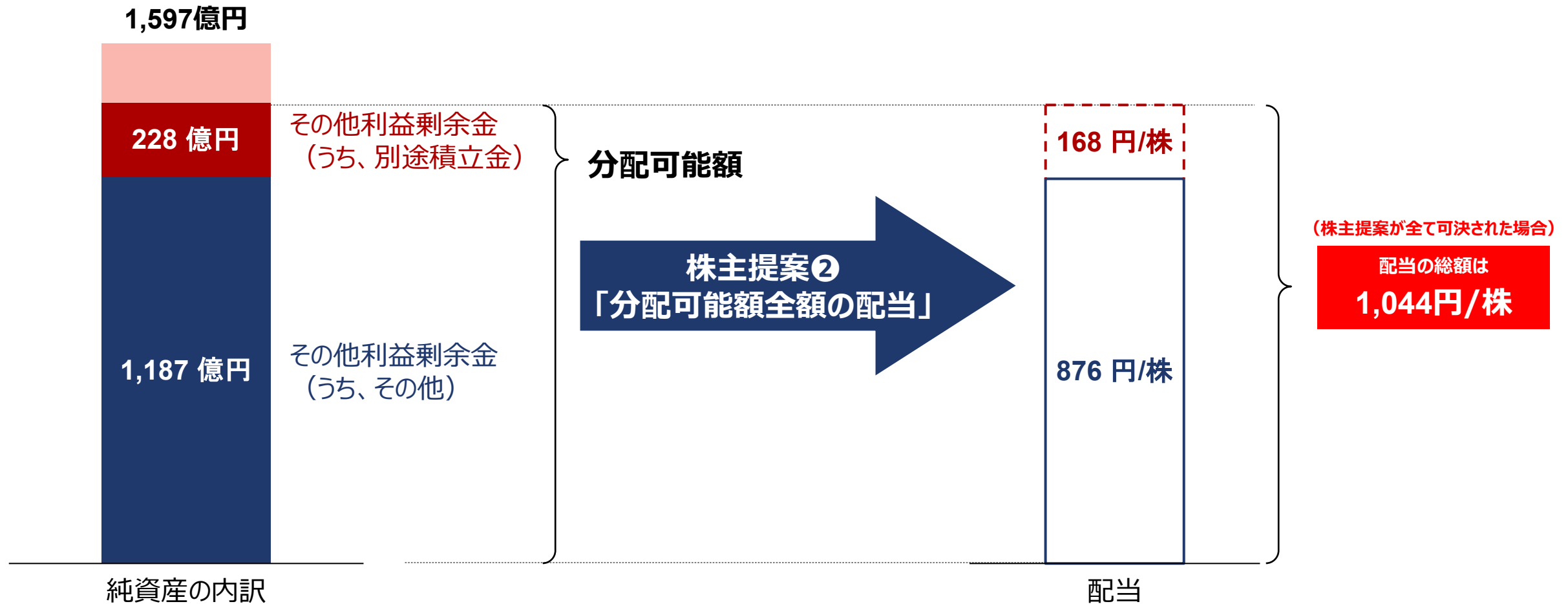
日産車体の単体純資産（2025/3期）



出所：有価証券報告書より弊社作成

株主提案② 日産車体の分配可能額の全額を配当する

日産車体の単体純資産（2025/3期）



出所：有価証券報告書より弊社作成。配当金額は2025年3月期末における単体の買換資産圧縮積立金、圧縮積立金、別途積立金及び繰越利益剰余金の総額を分配可能額と仮定し、また、2025年12月末における発行済株式数から自己株式数を控除した株式数を配当対象株式数と仮定して試算した場合の試算値

株主提案に対するFAQ

(Q) 巨額の配当によって財務健全性が損なわれ、日産車体の信用が低下するのではないか？

(A) 日産車体は日産自動車の工場の一区画であり、元から「日産自動車の信用」に完全に依存している。従って、「日産車体の信用」がそもそも存在しない

(Q) 巨額の配当によって必要な投資ができなくなるのではないか？

(A) 日産車体は日産自動車のCMSに参加しているので、日産自動車から低金利での資金調達が可能

(A) そもそも日産車体は日産自動車の工場の一区画なので日産自動車が責任を持って設備投資を行うべき



Strategic Capital

株式会社 ストラテジックキャピタル